

思い思いの仮装で参加
ハロウィンナイトイベント行われる



10月27日、「ハロウィンナイトパレード」(上ノ国町観光振興公社主催)が、ジョイ・ビュで開催され、アニメのキャラクターに仮装した親子など約300人が参加しました。

今年で2回目の開催となったこのイベントは、悪天候のため、パレードは中止となったものの、会場内ではハロウィンメイクを施すブースやお化け屋敷などが設けられハロウィンをモチーフとした催しで盛り上がりつつありました。その後、お菓子が参加者に手渡されると子どもたちは満面の笑みを浮かべていました。

参加した幼児は、「お化け屋敷は怖かったけど、とても楽しかった」と話し、今後も家族ぐるみで楽しめるイベントとして定着することを期待しています。

元気にハッスル
高齢者スポーツ大会



11月15日、今年で40回目となる『高齢者スポーツ大会』(上ノ国町老人クラブ連合会主催)がスポーツセンターで開催され、70歳以上の高齢者約200人が参加しました。

この大会は、高齢者同士の交流と健康増進を目的に行われており、スポーツセンターでは初の開催。競技は、上ノ国高校の生徒の支援を受けながら8種目が行われ、このうち男女がペアとなり大きなパンツを履いてリレーを行う「幼なじみ」では、お互いに気を使いつつも次の走者に少しでも早くつなぐとハッスルしていました。

今回初めて参加した人は、「周りの先輩たちが元気なのは驚いた」と感心しながら話していました。なお、競技の結果、湯ノ岱老人クラブが昨年に続き優勝しました。

自分たちが育てた
白豆で和菓子作りに挑戦



11月13日、河北小学校を会場に同校の1・2年生10名とその保護者による『和菓子づくり体験』が行われ、もんじゅ内にある「菓処あまのがわ」の工藤三代さんの指導のもと、「練り切り」と「どら焼き」づくりには挑戦しました。

この取り組みは、農業と食とのつながりを学ぼうと行われたもので、和菓子の材料に児童が地域の協力を得て育て収穫した白いんげん豆を使用しました。

練り切りづくりでは、赤や黄色などに着色された餡を使い、カメやリンゴなど個性あふれる形に仕上げていました。また、どら焼きづくりでは、「カミゴン」の焼き印を押す作業に挑戦し、焼き付ける時間が長すぎて焦がす児童もいました。が、「でき上がったどら焼きを、笑顔で頬張っていました。」

車が止まってから
横断歩道を渡ろう



11月14日、上ノ国保育所に通う園児に交通安全などの指導を行う『くまクラブ』(上ノ国保育所父母と保育の会主催)が同所で行われ約50人が参加しました。

はじめに江差警察署の警察官が、冬の道路事情を説明した上で、「道路が凍ると車は止まらなくなるので、絶対に道路に飛び出したり、遊んだりしないこと」を呼びかけました。園児は大きな声で返事をしました。その後、見通しが悪い横断歩道を渡る練習を行い、園児は車が確実に止まったことを確認してから横断歩道を渡っていました。

これからの季節は、道路の凍結に加え、視界不良となることが多いことから、道路を通行するときは歩行者もドライバーも十分に気を付けましょう。